第２期　静岡市がん対策推進計画　概要版（案）

第１章　計画策定の趣旨

（１）計画策定の趣旨と背景

がんは、日本において死因の第１位であり、2024年に亡くなった方のうち26.9%(約38万人)ががんで亡くなっています。また、生涯のうち約２人に１人ががんに罹患すると推計されています。

静岡市においても、年間約２千人ががんで亡くなっており、第５次静岡市総合計画で掲げている「いつまでも健康で生きがいを持って暮らすことができるまち」の実現を目指すうえで、がん対策は重要な課題の１つとなっています。

そのため、静岡市では静岡市がん対策推進条例(以下「条例」という。)を平成31(2019)年４月に施行しました。その後、令和３(2021)年３月に条例第20条第１項に基づき「第１期　静岡市がん対策推進計画(以下「第１期計画」という。)」を策定し、条例第19条第１項に規定する静岡市がん対策推進協議会において、継続的な協議を行いながら、がん対策に関する取組を行ってまいりました。

「第２期　静岡市がん対策推進計画(以下「第２期計画」という。)」は、国や静岡県のがん対策に関する計画や動向、第１期計画の進捗状況や静岡市の課題・社会状況の変化等を踏まえ、静岡市のがん対策を一層推進していくために策定します。

第２期計画では、静岡市のがん対策における「目指すべき未来像」並びにそれを実現するための「基本理念」及び「基本項目」を以下のとおり定めます。

そして、これらを達成するための施策の体系を右記のとおり構成し、施策の進捗状況を管理する成果指標の項目を４つ追加します。

（２）目指すべき未来像・基本理念・基本目標

目指すべき未来像

市民誰もが、がんへの理解及び知識を深め、予防や早期発見に努めるとともに、がん患者が尊厳を保ちつつ安心して暮らすことのできる社会

基本理念

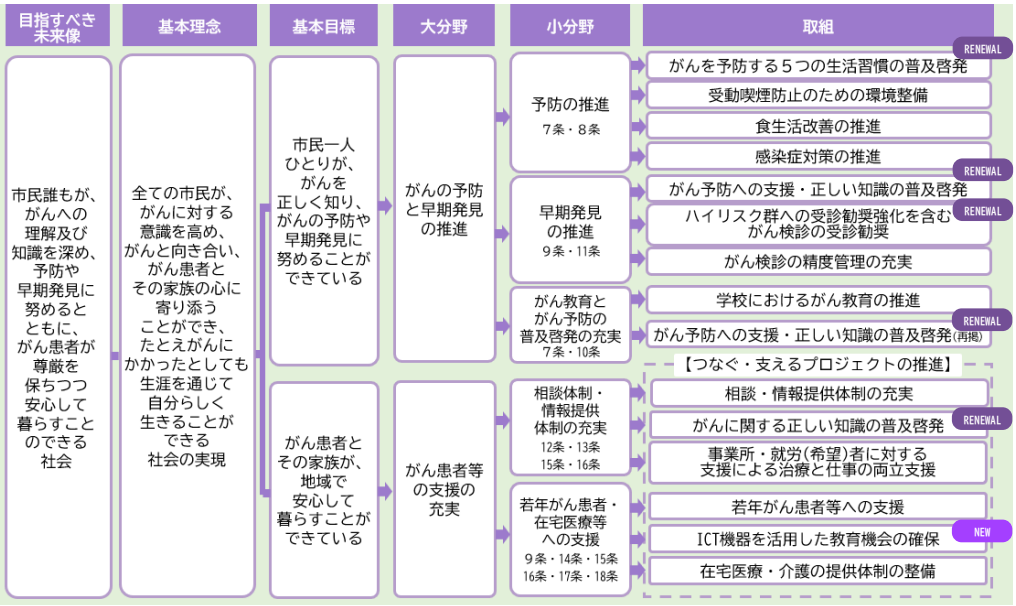
全ての市民が、がんに対する意識を高め、がんと向き合い、がん患者とその家族の心に寄り添うことができ、たとえがんにかかったとしても生涯を通じて自分らしく生きることができる社会の実現

基本目標

基本目標　１
市民一人ひとりが、がんを正しく知り、がんの予防や早期発見に努めることができている

基本目標　２
がん患者とその家族が、地域で安心して暮らすことができている

（３）施策の体系



（４）成果指標（抜粋）

大分野	小分野	成果指標		
		成果指標(出典)	現状の実績値	計画最終目標値(R14)
年齢調整死亡率 ※人口10万対・H27年モデル人口 (厚生労働省「人口動態調査」から静岡市算出)			250.4 (R6)	前年の数値を下回る
がんの予防と早期発見の推進	予防の推進	食塩摂取量の平均値の減少 (国民健康・栄養調査)	―	7ｇ
がん患者等の支援の充実	相談体制・情報提供体制の充実	がん相談支援センターについて知っている市民の割合 (静岡市市民意識調査)	11.8% (R8)	14.9%
		がんにかかっても働きながら、がん治療を受けられる体制が整いつつあることを知っている市民の割合 (静岡市市民意識調査)	32.5% (R8)	40.9%
	若年がん患者・在宅医療等への支援	人生会議(ＡＣＰ)について知っている市民の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	9.0% (R4)	27.4%

第２章　現状と課題

（１）がんによる死亡やがんの罹患数と罹患率について

現状：がんは静岡市において死因の第１位であり、特に肺がん、大腸がんが多いです。（図１、図２）
課題：死亡数の多い肺がん、大腸がんへの対策が必要です。

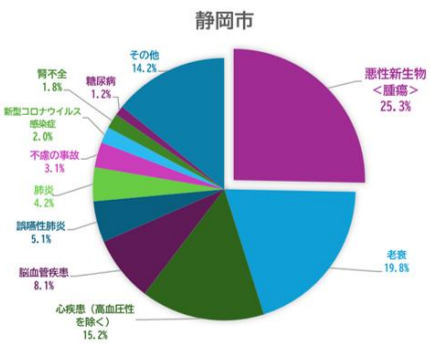
現状：罹患数は大腸がん、乳がん、肺がんが多く、乳がん、前立腺がん、膵臓がんが増加傾向となっています。（図３）
課題：罹患数の多い大腸がんや肺がん、増加傾向にある乳がん、前立腺がん、膵臓がんへの対策が必要です。

現状：２人に1人は生涯のうち何らかのがんにかかると推計されています。（図４）
課題：がんを自分事として捉え広く市民や関係者を巻き込んだ対策が必要です。

現状：2050年まで高齢化が進展していくため、がん罹患数及び死亡数が増加する見込みです。
課題：がんは今後も、市民が健康で生きがいを持って暮らす上で、重大な問題であるため、様々ながん対策が必要です。

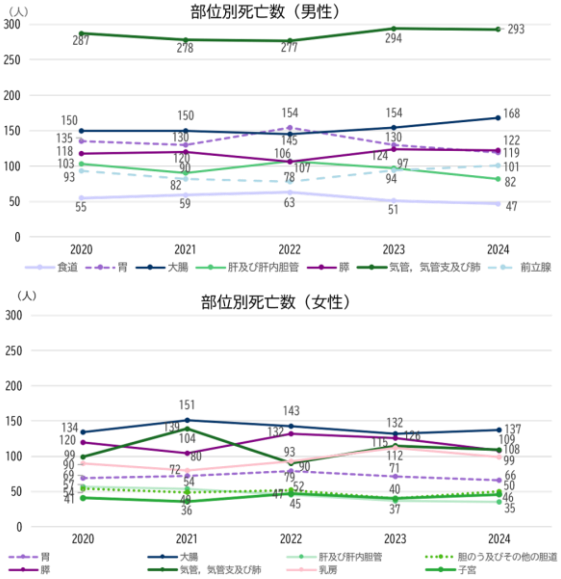
現状：がん患者の長期生存が可能になってきています。（図５）
課題：がんにかかった後の生活の質の維持・向上に取り組む対策が必要です。

【 図１ 】死亡原因におけるがんの割合(R6(2024)年)



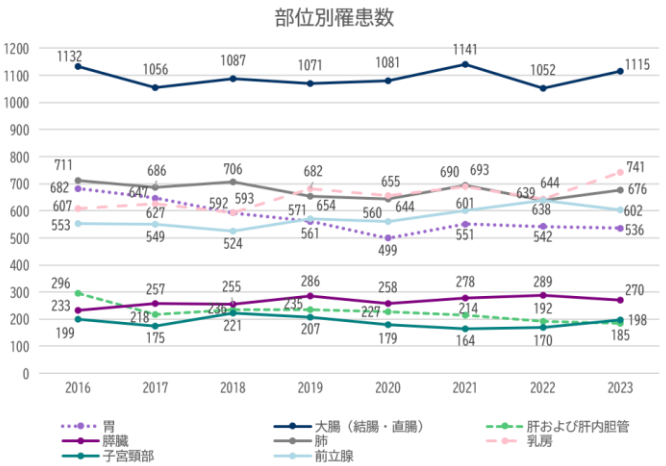
出典：「人口動態調査」（厚生労働省）を静岡市にて加工して作成(下巻 死亡 第４表　死亡数)
(https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html)

【 図２ 】静岡市におけるがんの部位別死亡数



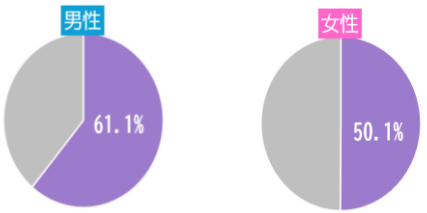
出典：「人口動態調査」（厚生労働省）を静岡市にて加工して作成
(下巻 死亡 第４表　死亡数)(https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html)

【 図３ 】静岡市における主ながんの部位別罹患数(延べ)



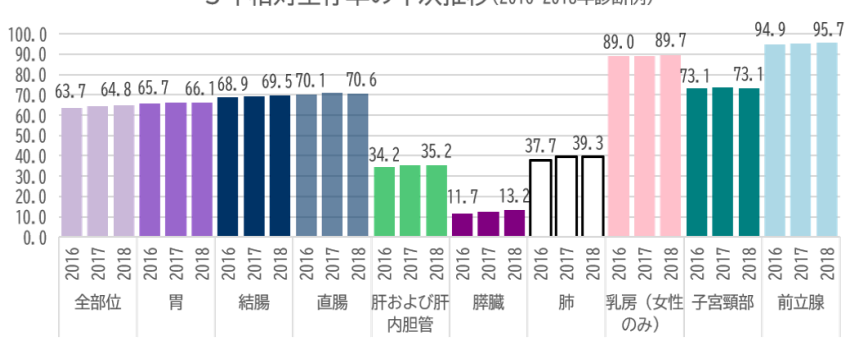
出典：「都道府県がん情報」を用いて静岡市にて算出・作成

【 図４】日本における生涯でがんと診断される確率



出典：国立がん研究センターがん情報サービス
「がん統計」（2023年データに基づく累積罹患リスク）から静岡市にて作成

【 図５ 】日本における部位別の５年相対生存率の年次推移



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」
（全国がん登録によるがん生存率データ(2016年～2018年診断)）から静岡市にて作成

第２章　現状と課題

（２）がん登録の活用について

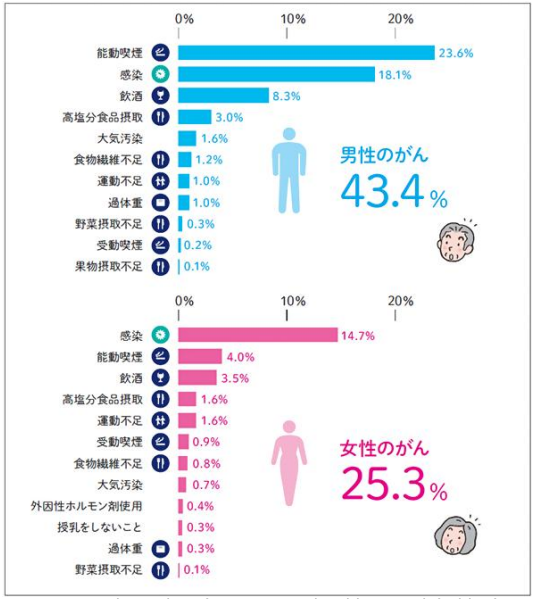
現状：正確なデータに基づくがん対策が必要ですが、十分なデータ分析ができていません。
課題：がん登録等のデータを分析し、エビデンスに基づいた施策の実施によるがん対策が必要です。

（３）がんの予防の推進

現状：肺がんや大腸がんなど生活習慣が一因であるがん種の死亡数が多く、がんの要因となる生活習慣の改善が進んでいない。（表１、２）
課題：がん予防のため、生活習慣の改善による対策が必要です。

現状：がんになる大きな要因の１つとして、特定のウイルスや菌の感染によるものがあります。（図６、表３）
課題：特定のウイルスや菌の感染によるがんを防ぐために、予防接種を受けやすい環境の構築が必要です。

【 図６ 】日本人におけるがんの要因



Inoue M, et al. Burden of cancer attributable to modifiable factors in Japan in 2015. Glob Health Med. 2022; 4(1): 26-36. より作成
出典：国立がん研究センターがん情報サービス
(https://ganjoho.jp/public/pre_scr/cause_prevention/evidence_based.html)

【 表３ 】ウイルスや細菌の感染が原因となるがんの種類

ウイルス・細菌	がんの種類
B型・C型肝炎ウイルス	肝がん
ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）	胃がん
ヒトパピローマウイルス（HPV）	子宮頸がん
ヒトT細胞白血病ウイルス１（HTLV−1）	成人T細胞白血病・リンパ腫

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

【 表１ 】がんと生活習慣との関連（リスク増加）

リスク増加		全がん	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん
たばこ	喫煙	◎	◎	◎	◎	△	◎
	受動喫煙			◎		△	
お酒	飲酒	◎	○※1		◎	○※2	
食生活	高塩分食品		○				
体重	太りすぎ	△	△		○	◎※3 △※2	
	やせすぎ	△		△			
感染			◎				◎

がん発生のリスクは　◎：確実に増加　○：ほぼ確実に増加　△：増加する可能性あり
※１ 男性　※２ 閉経前　※３ 閉経後

出典：国立がん研究センター

【 表２ 】がんと生活習慣との関連（リスク減少）

リスク減少		全がん	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん
食生活	野菜・果物		△	△※4			
身体活動					○	△	
感染対応			◎				◎

がん発生のリスクは　◎：確実に減少　○：ほぼ確実に減少　△：減少する可能性あり
※４ 果物のみ

出典：国立がん研究センター

第２章　現状と課題

（４）がんの早期発見の推進

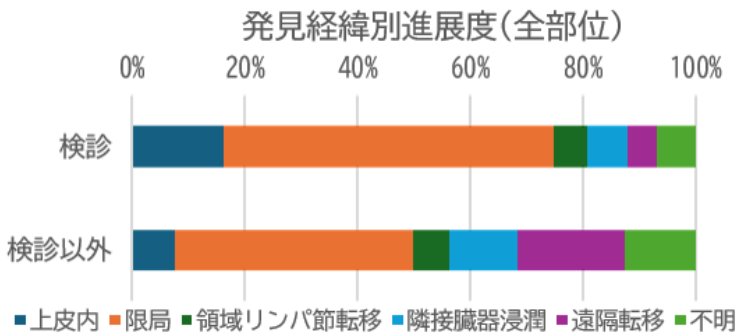
現状：早期発見・早期治療で生存率が高まるため、がん検診受診率の向上が必要ですが、がん検診受診率が伸び悩んでいます。（図７、８、９）
課題：受診率向上のために、早期発見の重要性や検診受診への行動変容を促すようなエビデンスに基づく受診勧奨などの対策が必要です。

現状：がん検診で、がんを早期に発見し、早期治療につなげるためには、検診の品質管理と検診結果の管理（精度管理）に取り組む必要があります。
課題：がん検診精度管理協議会による精度管理の充実が必要です。

（５）がん教育とがん予防の普及啓発

現状：がん教育は主に児童生徒を対象として実施していますが、大人へのがんに関する知識の普及啓発が十分ではありません。
課題：全世代が、がんについて正しく理解するための対策が必要です。

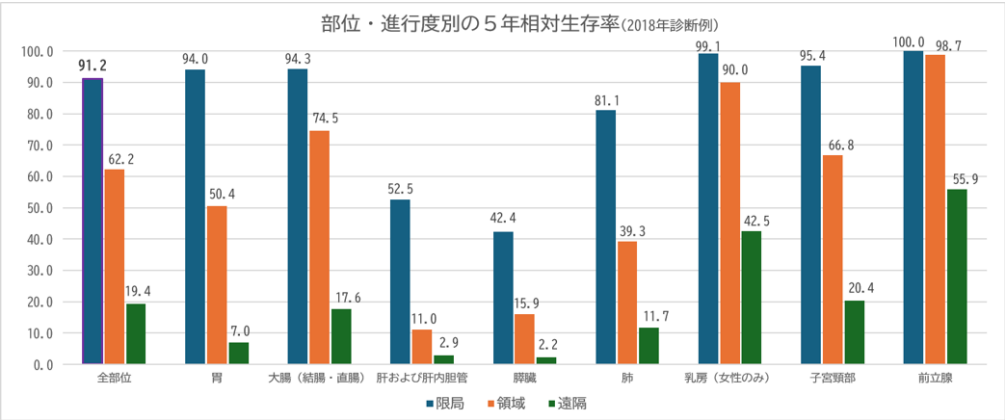
【 図８ 】静岡市における発見経緯別のがんの進展度（2023年診断例）



※検　診：がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例
※検診以外：他疾患の経過観察中の偶然発見、剖検発見、その他、不明での発見例

出典：「都道府県がん情報」を用いて静岡市にて算出・作成

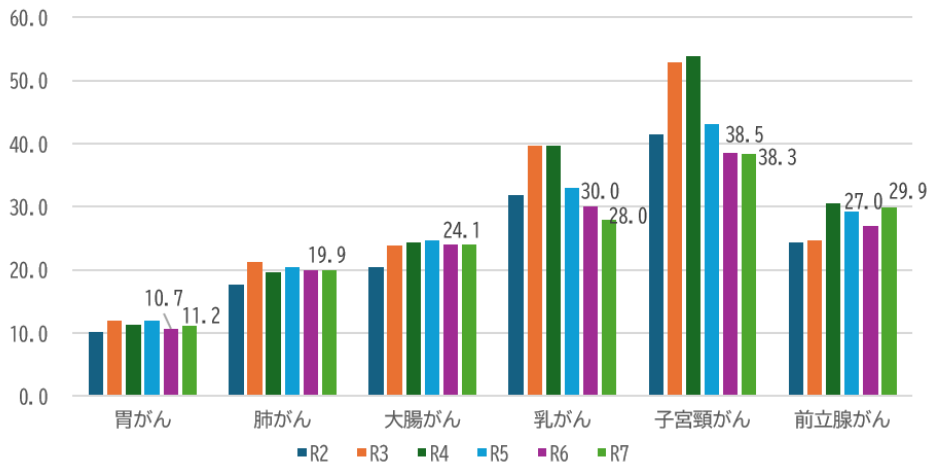
【 図７ 】日本における部位・進行度別の５年相対生存率



■限局：原発臓器に限局している　■領域：所属リンパ節転移または隣接臓器浸潤
■遠隔転移：遠隔臓器、遠隔リンパ節などに転移・浸潤あり

出　　典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録によるがん生存率データ（2016年～2018年診断））を基に静岡市にて作成
引用文献：全国がん罹患モニタリング集計　2009-2011年生存率報告（国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター，2020）、
独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」平成22年度報告書を基に静岡市にて作成

【 図９ 】推計対象者（職域検診を含まない）による静岡市のがん検診受診率（年次推移）（%）



出典：静岡市算出

第２章　現状と課題

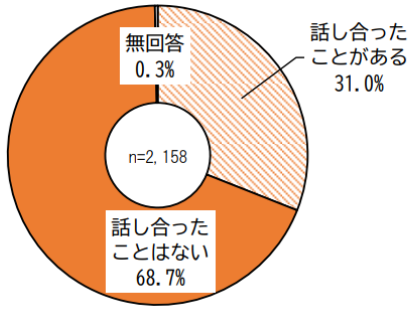
（６）相談体制・情報提供体制の充実

現状：がん患者や家族が抱える身体的、精神的、社会的つらさは多様であり、早期から相談へ繋げる必要がありますが、がん相談支援センターなどの相談窓口の認知度が十分ではありません。（図10）
課題：がん相談支援センターの認知度向上やがん患者団体等と連携した支援環境の整備による相談体制の充実が必要です。

現状：がん医療の進歩により、働きながらがん治療を受けられる可能性が高まっています。
課題：両立支援セミナーの開催などにより、職場や上司への働きかけを行い、がん患者の就労継続に向けた環境を整備することが必要です。

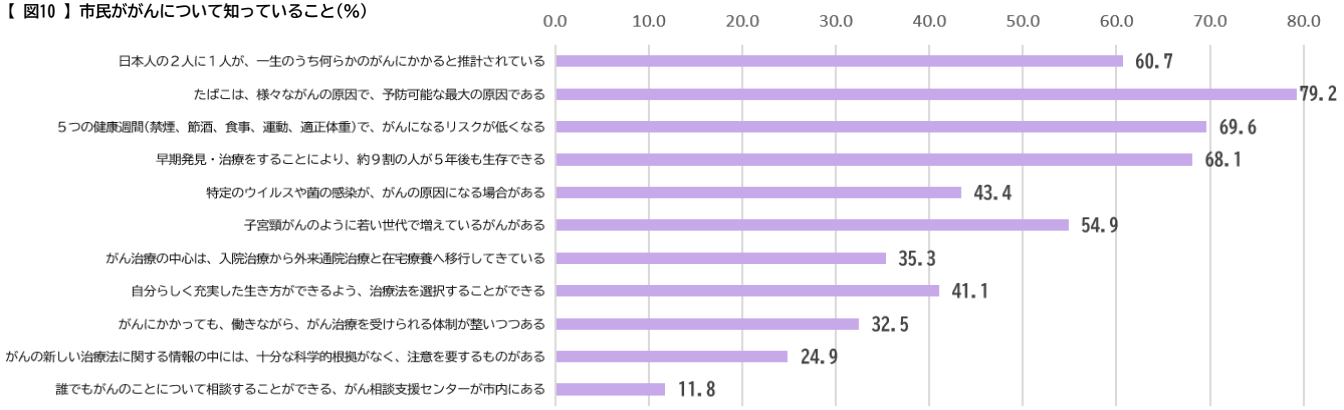
現状：がんと診断された時からの緩和ケアの必要性やＡＣＰ（人生会議）の普及啓発、希少がんなどに関する情報提供が十分ではありません。（図11）
課題：市民が がんを正しく理解し、必要な時に必要な情報へアクセスできるような対策が必要です。

【 図11 】人生の最終段階における医療・ケアについて話し合ったことがある市民の割合（%）



出典：人生会議（ＡＣＰ：アドバンス・ケア・プランニング）に関する市民意識調査（令和４年３月静岡市）

【 図10 】市民ががんについて知っていること（%）



出典：令和８年度 静岡市市民意識調査

第３章　第１期計画の進捗状況と評価

「がんの予防と早期発見の推進」の分野では、計画掲載事業の86.2%が期待どおりか期待を上回っており、成果指標において「ＨＰＶワクチン接種実施率」及び「Ｂ型肝炎ワクチン接種実施率」が計画最終目標を達成しています。一方、「生活習慣」や「がん検診受診率」などは目標が未達成あるいは数値が悪化しているため、改善が必要です。

「がん患者等の支援の充実」の分野では、計画掲載事業の80.0%が期待どおりか期待を上回っており、成果指標において「在宅看取り率」が計画最終目標を達成、「２人に１人ががんにかかることを知っている市民の割合」では、数値の改善がみられるなどの一定の成果がありました。

第２期計画では、短期的な受診率向上を重要な課題としつつ、中長期的な取組に加え、静岡市に関する医療・健診等の関連データを研究機関等と連携して高度に活用し、科学的根拠に基づくリスク別対策等のアプローチの導入を検討します。これにより、市民一人ひとりの健康と安心を支えるがん対策の実現を目指していきます。

第４章　第２期計画策定の方向性

（１）取組の見直しの柱

柱 １　生活習慣の改善及び予防可能な要因の軽減によるがん予防

５つの生活習慣（禁煙、飲酒を控える、食生活、身体活動、適正体重の維持）で、がんにかかるリスクが男性で43%、女性で37%低下します。よって、研究機関等と連携し、市民の健康状態に関する分析を実施し施策に反映することで、さらなる生活習慣の改善を目指します。（図12、13）

予防可能な要因の中でも罹患への影響が大きいとされる「感染」対策に取り組み、罹患率の低減を目指します。

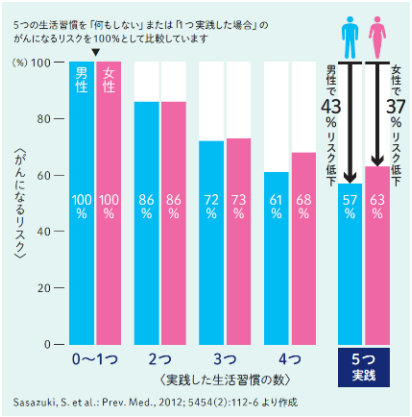
「がん検診」だけでなく、「特定健診」等の受診率の向上、健康の見える化と指導などの介入により健康習慣実践者の増加を目指します。

【 図12 】日本人のためのがん予防法（５＋１）



出典：国立がん研究センター　科学的根拠に基づくがん予防法

【 図13 】５つの生活習慣の実践とがんになるリスクの低下



出典：国立がん研究センター　科学的根拠に基づくがん予防法

柱 ２　がん検診及び精密検査受診率の一層の向上

医療・健診データを研究機関と連携して活用する等、科学的根拠に基づくリスク別対策のアプローチを検討し、早期発見施策の実効性向上を目指します。

がん検診精度管理協議会での協議等により、がん種ごとに抱えている課題について対応を検討するとともに、一層の精度管理に努めていきます。

柱 ３　患者等への支援と市民への「がんに関する正しい知識」の普及啓発

診断や治療等の節目において、患者等が適切に相談や支援を受けられる体制を維持できるよう患者や家族の支援に取り組みます。

市民が、がんにかかる前からがんを正しく理解し、自分のこととして捉え、がん予防、早期発見、科学的根拠に基づく治療の考え方を理解できるよう、普及啓発を推進します。

（２）指標の見直しの方向性

国・県の「がん対策推進基本計画」の中間評価を参考としつつ、がん登録データ等を活用した現状把握を行い、指標や目標値の設定を行います。

第５章　施策の展開

第２章の現状と課題、第３章の第１期計画の評価、第４章の計画策定の方向性を踏まえ、静岡市のがん対策を一層推進していくために、施策の体系で示した各取組を実施していきます。